北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

札幌医科大学学術機関リポジトリ ikor
SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	看護系大学生のキャリア発達に関する実態調査－認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と資格取得に必要と考える事項および情報源－
Author(s)	田口，裕紀子;門間，正子;皆川，ゆり子;神田，直樹;中井，夏子;城丸，瑞恵
Citation	札幌保健科学雑誌,第 2 号:11-18
Issue Date	2013 年 3 月
DOI	10.15114/sjhs.2.11
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/5554
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n2186621X211.pdf

・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

札幌保健科学雑誌　第２号　11－18（2013）

原　著

看護系大学生のキャリア発達に関する実態調査

ー認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と資格取得に必要と考える事項および情報源ー

田口裕紀子[1)]、門間正子[2)]、皆川ゆり子[3)]、神田直樹[4)]、中井夏子[2)]、城丸瑞恵[2)]

[1)] 札幌医科大学附属病院高度救命救急センター看護室

[2)] 札幌医科大学保健医療学部看護学科

[3)] 北海道立子ども総合医療・療育センター

[4)] 札幌医科大学附属病院集中治療部門看護室

看護基礎教育課程におけるキャリア発達支援構築の資料として、看護系大学生73人を対象に、認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と、資格取得に必要と考える事項および情報源について調査した。認定看護師、専門看護師では、半数が役割を知っており、6～7割が関心があると回答していたのに対し、修士・博士に対してはいずれも1割程度と低かった。資格取得については「情報」が必要で、情報源としては「インターネット」と回答していた。認定看護師や専門看護師の役割については制度発足から15年経過していることで周知が進んでいること、また、学生は実践家としての教育を受けていることから修士・博士に対する認識よりも、実践家である認定看護師、専門看護師に対する認識が高かったものと考えられる。以上より、看護基礎教育においては入学後、早期から情報提供などのキャリア発達支援が必要であるという示唆を得た。

キーワード：看護系大学生、キャリア発達支援、認定看護師、専門看護師、修士・博士

Fact-Finding Survey for Career Development of Nursing Undergraduates: Their Knowledge of and Interest in Certified Nurse, Certified Nurse Specialist, Master's and PhD Courses in Nursing, Important Factors in Deciding Career Path and Source of Information

Yukiko TAGUCHI[1)], Masako MOMMA[2)], Yuriko MINAGAWA[3)], Naoki KANDA[4)], Natsuko NAKAI[2)], Mizue SHIROMARU[2)]

[1)] Nurse Stations of Emergency and Critical Care Medical Center, Sapporo Medical University Hospital
[2)] Nursing Department, School of Health Sciences, Sapporo Medical University
[3)] Hokkaido medical center for child health and rehabilitation
[4)] Nurse Stations of Intensive Care Unit, Sapporo Medical University Hospital

A survey was undertaken to investigate the nursing students' knowledge of an interest in professional qualifications (certified nurse and certified nurse specialist) and academic qualifications (Master's and PhD in nursing), with a view to using the outcome as information for preparing a career development support program in basic nursing education. 73 nursing undergraduates were asked about their interest in the said qualifications; what would be important in choosing a career path; and how they would obtain necessary information. Half of the subjects knew roles of certified nurses and certified nurse specialists, with 60-70% showing an interest. Only 10% knew the roles of and had an interest in the Master's and PhD courses. They thought information was an important factor and internet was their source of information. Having been established for 15 years, the certified nurse and certified nurse specialist qualifications are now widely known. The authors suggest that this, coupled with their training to become practitioners, makes the undergraduates more interested in professional qualifications. However, the undergraduates should be made aware of various career paths, both practical and academic, and career development support should start early in the first year of the undergraduate basic nursing education program.

Key words：Nursing undergraduates, career development support, certified nurse, certified nurse specialist, Master's and PhD courses in nursing

Sapporo J. Health Sci. 2:11-18(2013)

＜連絡先＞　田口裕紀子：〒060-8543　札幌市中央区南1条西16丁目　札幌医科大学附属病院高度救命救急センター看護室

Ⅰ．はじめに

看護界における資格認定制度は、1996年の専門看護師、1997年の認定看護師の誕生に始まる。また、看護学教育を行なう大学院は1996年では修士課程8校、博士課程5校であったものが、2010年には修士課程127校、博士課程61校[1]と著しく増加している。これらのことから、看護職者のキャリア発達のための選択の幅は広がりを見せており、看護の専門性向上を目指すキャリア発達は、個々の看護職者にとっても重要な課題と言える。キャリア発達支援は看護師の職務満足度を向上させ、職務満足と対象である患者の満足との間には正の相関関係がみられる[2]ことから、看護師のキャリア発達は看護の対象者の満足へとつながるため、看護職者のキャリア発達を支援する意義は大きい。看護職者のキャリア志向は組織に参入する以前の卒業時点で既にその大枠が決定されていると報告されている[3]。また、キャリア発達は連続性の中で行われるため、看護職者のキャリア発達過程を促進するためには、早期のキャリアマネジメントが必要である[4][5]と言われている。しかし、看護基礎教育においては、臨地実習そのものが職業の理解につながると考えられてきた背景や昨今の看護師不足などが影響し、他の領域ほどキャリア教育が重要視されていない現状にある[6]。看護の独自性や専門性の拡大、看護基礎教育の充実化、学生の多様化等への対応を図るためには、看護基礎教育においても職業観や労働観の育成に加え、自己の個性を理解し主体的に進路を選択する能力や態度を育てる「キャリア教育」が重要と言える[7][8]。キャリアに対する目標を看護学生時代から検討する事は、看護学生のキャリア発達過程を促進し、キャリアマネジメント能力を向上させる上で重要である。これらのことから看護基礎教育課程において、看護学生に対するキャリア発達支援体制を構築することが必要であると考えた。

看護学生のキャリア発達支援に関する研究では、看護学生を対象に進路セミナーや情報提供を中心としたキャリア発達プログラムの意義と効果が調査されており、キャリア発達プログラムはキャリア育成の動機づけや主体的な進路選択能力育成に効果的であることが報告されている[9]。また、看護学生を対象とした就職病院選択で重視する事項や情報源に関する調査では、主に卒後教育が整備されていることを重視し、就職説明会やインターネットを情報源としていることが報告されている[10～15]。このように、看護学生のキャリア発達支援に関する研究は、支援する側である学校が提供しているものの評価や職場選択に関する調査が主であり、支援される側である看護学生が資格取得や学位取得といったキャリア選択に必要と考える事項や具体的な情報源ついて調査した研究は見当たらない。そこで本研究では看護基礎教育課程における看護学生のキャリア発達支援体制構築の基礎資料とするため、認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と、資格取得に必要と考える事項および情報源について調査し、学習進度によりその認識に差異が生じるか否かを検討するため学年間で比較した。

用語の定義

キャリア発達：個人が職業上の地位と役割の連続を通して自分の目標を明確にし、それを試み修正し、自己成長させていくこと[16]。本研究では、看護学生が看護職者として職業上の自己の目標を明確にし、それを試み修正し成長させていくこと。

資格取得：認定看護師、専門看護師の資格、修士・博士の学位を取得すること。

Ⅱ．研究目的

看護系大学生の認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識と、資格取得に必要と考える事項および情報源を明らかにし、学年による差異があるか否かを検討する。

Ⅲ．研究方法

１．対象および調査方法

A大学看護学科の1～4年生185人（1年生49人、2年生44人、3年生47人、4年生45人）を対象に2012年4月25日～2012年5月11日、１）希望する医療職種、２）認定看護師、専門看護師、修士（専門看護師教育課程を除く）・博士に対する認識、３）資格取得に必要と考える事項、４）資格取得に必要と考える情報源について、自記式のアンケート調査を行なった。アンケートの回収はアンケート用紙を封筒に封入後、回収箱への投函による留め置き法とした。

２．調査の内容

１）希望する医療職種については、「看護師」「保健師」「助産師」「まだ決めていない」「その他」の5項目から1項目のみ選択とした。２）認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識については、それぞれの役割を「よく知っている」「やや知っている」「どちらとも言えない」「あまり知らない」「全く知らない」の5段階から、関心の有無を「とても関心がある」「やや関心がある」「どちらとも言えない」「あまり関心がない」「全く関心がない」の5段階から、志望の有無を「とてもなりたい」「ややなりたい」「どちらとも言えない」「あまりなりたくない」「全くなりたくない」の5段階から、それぞれ一つのみ選択とした。３）資格取得に必要と考える事項については、「家族のサポートが必要である」「自分の経済的余裕が必要である」「病院の経済的サポートが必要である」「病院の休暇取得のサポートが必要である」「所属部署の上司のサポートが必要である」「所属部署の同僚のサポートが必要である」「モデルとなる人の存在が必要である」「相談できる人が必要である」「教育機関への通いやすさが必要である」「職場で資格取得

の意思表示をする場や方法の明確化が必要である」「資格取得のための情報が必要である」の11項目について、「とてもそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の5段階から一つのみ選択とした。４）資格取得に必要と考える情報源については、「書籍・雑誌」「インターネット」「テレビ・ラジオ」「パンフレット」「説明会（病院説明会・学校の説明会）」「授業」「有資格者（認定看護師・専門看護師）」「学位取得者（修士・博士）」「教員」「友人・知人・先輩」「その他」「特にない」の12項目から該当するものをいくつでも選択とした。

３．分析方法

データは統計解析ソフトウェア“SPSS12.0J for Windows”を用いて集計した。認定看護師、専門看護師、修士・博士それぞれの役割を知っているか（以下、役割認知）については、「よく知っている」「やや知っている」を「知っている」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまり知らない」「全く知らない」を「知らない」として、関心の有無（以下、関心）については、「とても関心がある」「やや関心がある」を「関心がある」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまり関心がない」「全く関心がない」を「関心がない」として、志望の有無（以下、志望）については、「とてもなりたい」「ややなりたい」を「なりたい」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまりなりたくない」「全くなりたくない」を「なりたくない」として、資格取得に必要と考える事項については、「とてもそう思う」「ややそう思う」を「そう思う」、「どちらとも言えない」を「どちらとも言えない」、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を「そう思わない」として集計した。学年間の比較にはχ二乗検定を行い、5%未満を有意差ありとした。

４．倫理的配慮

本研究は札幌医科大学附属病院および対象者が所属する施設における倫理審査で承認を得た。研究協力に際し口頭と文書にて、研究の目的、方法、プライバシー保護、研究参加や撤回の自由、協力撤回により不利益が生じないこと、収集したデータは個人が特定されない形で関連学会等に発表することを説明した。アンケート用紙は無記名とし、集団の特性から個人が特定されることを避けるため年齢、性別は問わなかった。回収箱への投函をもって研究への同意と見なした。

Ⅳ．結　　果

表１にアンケートの配布数、回収数（率）、有効回答数（率）を示した。185人中73人から回答を得（回収率39.5%）、

表１　アンケートの配布数、回収数（率）、有効回答数（率）

	配布数	回収数(回収率)	有効回答数(有効回答率)
全体	185	73(39.5%)	73(100%)
1年生	49	23(46.9%)	23(100%)
2年生	44	11(25.0%)	11(100%)
3年生	47	18(38.3%)	18(100%)
4年生	45	21(46.7%)	21(100%)

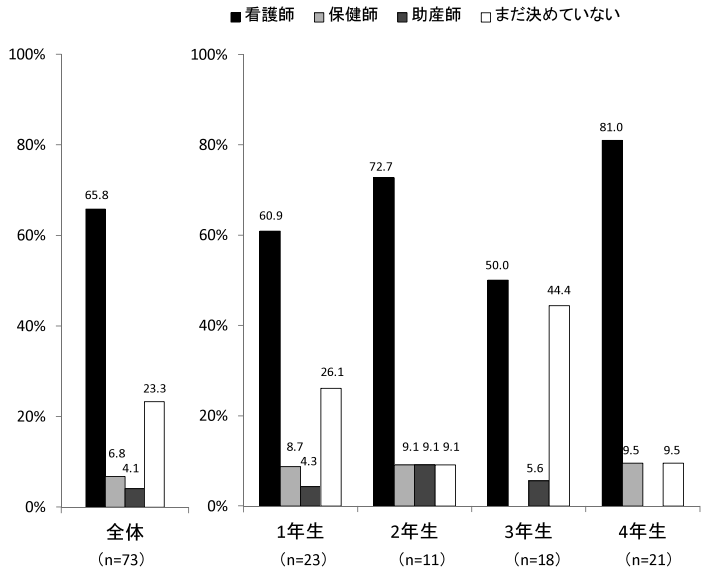

図１　Ａ大学看護系大学生が希望する医療職種

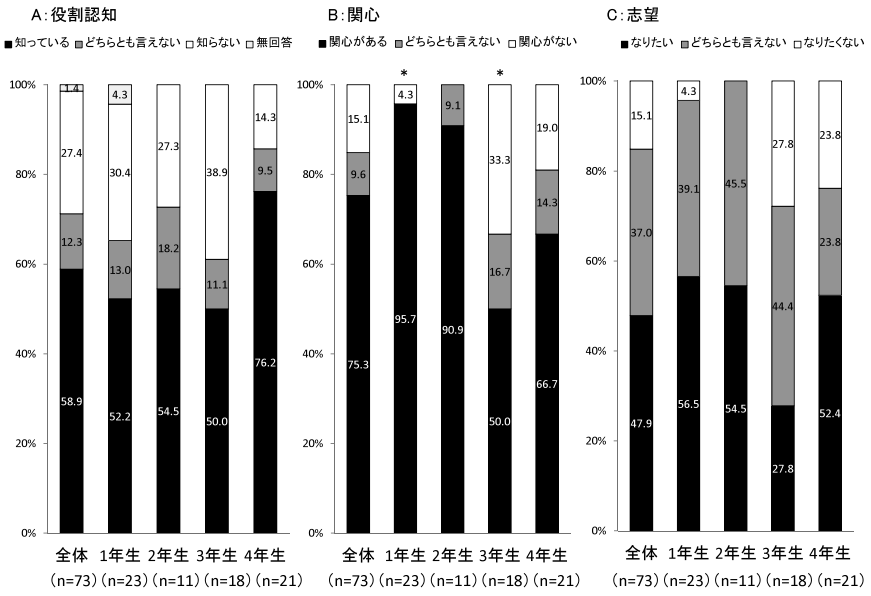

図２　Ａ大学看護系大学生の認定看護師に対する認識

＊：p<0.05（χ二乗検定）

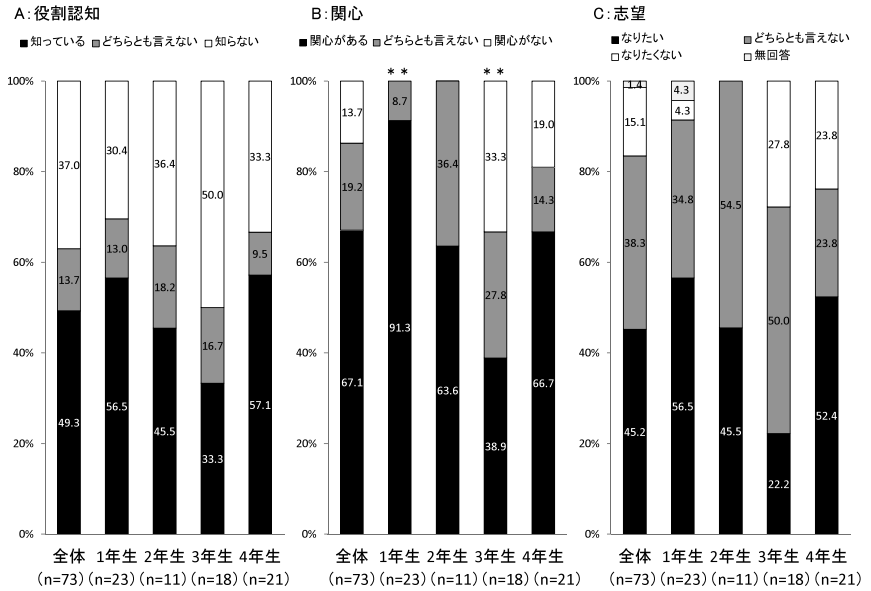

図３　A大学看護系大学生の専門看護師に対する認識

＊＊：p<0.01（χ二乗検定）

すべて有効回答であった（有効回答率100%）。

１．希望する医療職種

図１に対象者が希望する医療職種を示した。全体といずれの学年においても「看護師」が最も多く、学年間で有意差は認められなかった。

２．認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識

１）認定看護師について

図２に認定看護師に対する認識を示した。「役割認知」については、全体および各学年とも50%以上が「知っている」と回答しており、4年生で16人（76.2%）と多かったが、学年間で有意差は認められなかった。「関心」については、全体では55人（75.3%）が「ある」と回答していた。学年別で「ある」が多かったのは1年生22人（95.7%）、次いで2年生10人（90.9%）であり、3年生は最も少なく9人（50.0%）であった。学年間では1年生で有意に関心が高く、3年生で低いという結果であった（p<0.05）。「志望」については、全体では35人（47.9%）が「なりたい」と回答しており、3年生では5人（27.8%）と少なかったが学年間で有意差は認められなかった。

２）専門看護師について

図３に専門看護師に対する認識を示した。「役割認知」については、全体では36人（49.3%）が「知っている」と

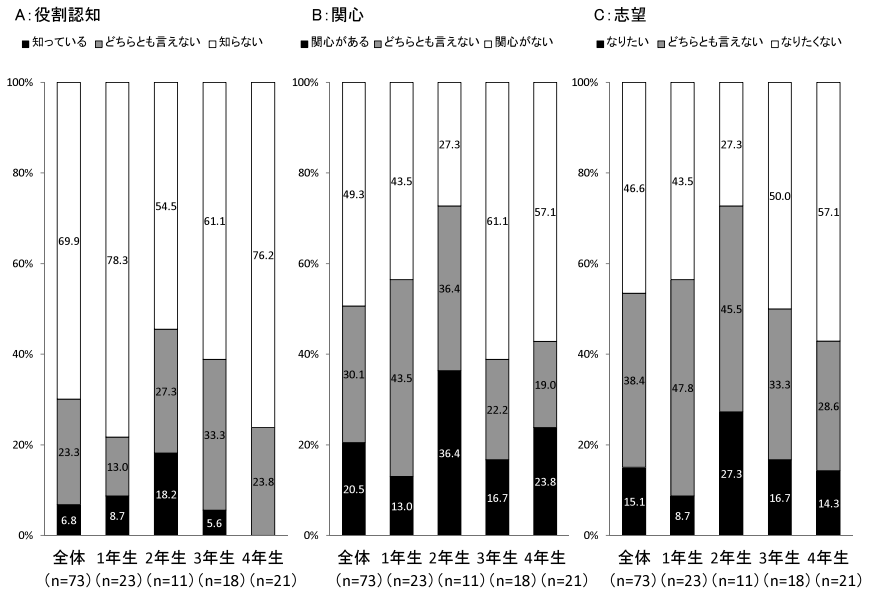

図４　Ａ大学看護系大学生の修士・博士に対する認識

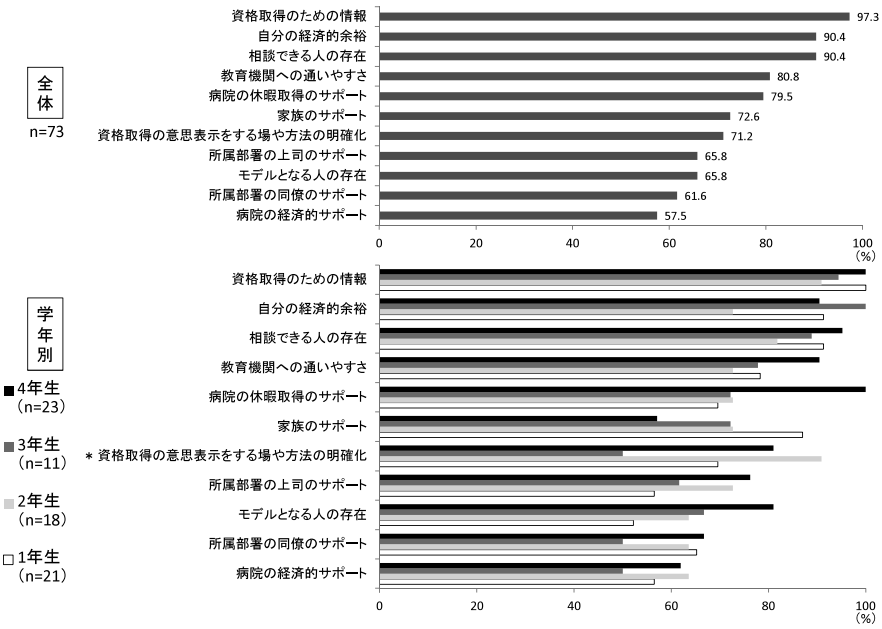

図５　Ａ大学看護系大学生が資格取得のために必要と考える事項（複数回答）

＊：$p<0.05$（χ二乗検定）

回答しており、3年生で6人（33.3%）と少なかったが学年間で有意差は認められなかった。「関心」については、全体では49人（67.1%）が「ある」と回答していた。学年別で「ある」が多かったのは1年生の21人（91.3%）であり、3年生は最も少なく7人（38.9%）であった。学年間では1年生で有意に関心が高く、3年生で低いという結果であった（$p<0.01$）。「志望」については、全体では33人（45.2%）が「なりたい」と回答しており、3年生では4人（22.2%）と少なかったが学年間で有意差は認められなかった。

３）修士・博士について

図４に修士・博士に対する認識を示した。「役割認知」については、全体では5人（6.8%）が「知っている」と回答しており、学年別では4年生で「知っている」という回答は0人（0%）であった。「関心」については、全体では15人（20.5%）が「ある」、「志望」については、全体では11人（15.1%）が「なりたい」と回答しており、「役割認知」「関心」「志望」のいずれにおいても学年間で有意差は認められなかった。

３．資格取得に必要と考える事項

図５に資格取得に必要と考える事項について「そう思う」と回答した結果を示した。全体では「資格取得のための情報」が71人（97.3%）と最も多く、次いで「自分の経済的

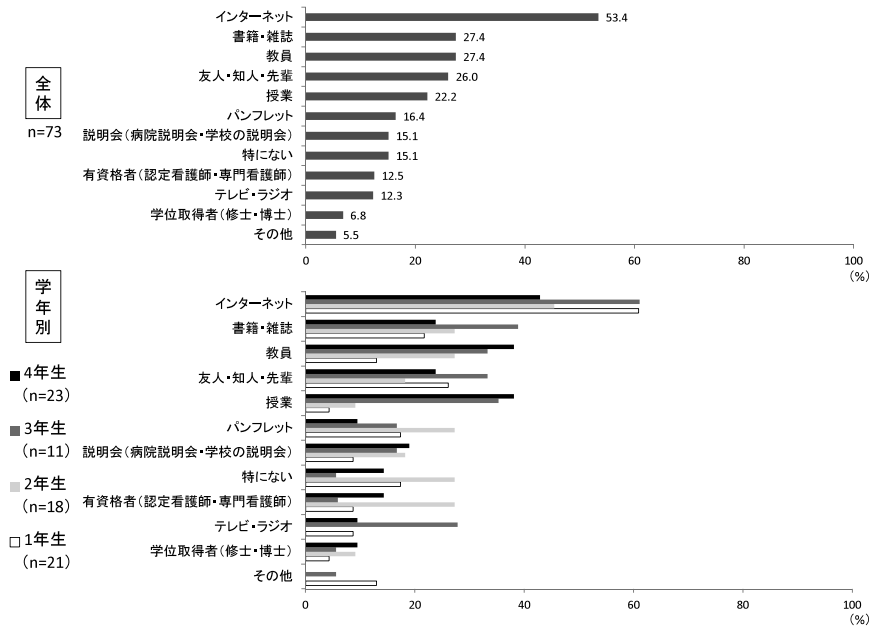

図６　Ａ大学看護系大学生の資格取得のための情報源（複数回答）

余裕」と「相談できる人の存在」でともに66人（90.4%）、「教育機関への通いやすさ」59人（80.8%）の順であった。学年別では「資格取得の意思表示をする場や方法の明確化」で有意差が認められ、3年生で「そう思う」が有意に低かった（$p<0.05$）。

４．資格取得に必要と考える情報源

図６に資格取得に必要と考える情報源を示した。全体では「インターネット」が39人（53.4%）と最も多く、次いで「書籍・雑誌」「教員」でともに20人（27.4%）、「友人・知人・先輩」で19人（26.0%）の順であり、学年間で有意差は認められなかった。

Ⅴ．考　　察

看護系大学生が希望する医療職種と、認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識、資格取得に必要と考える事項および情報源について調査し、学年間の比較を行なった。

希望する医療職種としては、「看護師」が最も多かった。2011年度の厚生労働省の「看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」によると、看護系大学の卒業生のうち81.7%が看護師として就業しており[17]、今回の結果は昨今の就業の需要が反映されたものと考える。

１．認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識

認定看護師、専門看護師、修士・博士に対する認識については、認定看護師、専門看護師において、1年生で有意に「関心」が高く、3年生で低かった。調査時期が4〜5月であるため、1年生は入学約1ヵ月後の時期にあたる。看護学生は高校卒業時点で看護職という職業選択をしており[18]、職業に対する心理的な準備が他学部の学生に比べて整っていると報告されている[19〜21]。本研究の1年生においても入学当初のため専門職に対する意識が高く、このため認定看護師や専門看護師への関心が高かったものと考えられる。一方、3年生は学習進度から、成人看護学や母性看護学などの各領域の授業や実習が始まる学年である。学生にとっては学習の難易度が上がり、カリキュラムが過密になって行く時期と考えられるため、各教科の単位取得が最優先の目標となり、将来的な認定看護師、専門看護師に対する関心が低かったものと考える。

全体では、認定看護師、専門看護師に比べ、修士・博士に対する役割認知、関心、志望はいずれも低かった。認定看護師や専門看護師については資格認定制度発足から15年経過しており、日本看護協会や看護系大学協議会により資格取得の方法や臨床での役割が周知されていることから、認定看護師、専門看護師に対する認識が高かったものと考えられる。学生は看護基礎教育において主に実践家としての教育を受けており、臨床経験を重視する傾向がある[22]。看護師の職業を実践家として捉えている場合、将来的に修士・博士といった研究者としてのキャリア発達は考えにくいことから、修士・博士に対する認識が低かったものと考えられる。しかし現在、臨床の看護職者による研究が盛んに行なわれており、研究的・論理的視点で臨床の実践を検証していくことは、看護の質の向上には不可欠と考える。看護基礎教育において、看護学生時代から将来的に修士・博士課程に進学し、看護における課題を研究的かつ論理的に探究することの必要性を伝えていくことが重要と考える。

２．資格取得に必要と考える事項および情報源

資格取得に必要と考える事項については、「資格取得のための情報」「自分の経済的余裕」「相談できる人の存在」が9割を超えており、学生は社会的支援とともに心理的支

援を必要としていることがわかった。学年間の比較では、「資格取得の意思表示をする場や方法の明確化」において、3年生で有意に低いという結果であった。3年生は専門看護師、認定看護師に対する「関心」も他の学年に比べて低く、このことから、意志表示やその方法の明確化の必要性を感じていなかったものと推察される。本研究では、「資格取得のための情報」として学生が具体的にどのような情報を知りたいかは調査していない。今後は、学生がキャリア発達に向けて得たいと考えている情報を調査し、看護基礎教育において、それらの情報を提供していくことが重要と考える。

資格取得に必要と考える情報源については、「インターネット」が最も多かった。これはインターネット上で資格取得に関する情報が発信されていること、また学生は義務教育課程からIT教育を受けており、インターネットが学生にとって身近な情報収集手段であること、さらにパソコンの普及やインターネット利用環境が整備されていることによるものと考えられる。そのため、看護基礎教育においてはインターネットによる情報収集の利点を活用するとともに、学生にとって情報の確実性を保証することができるような情報リテラシー教育を含めたインターネット環境を整備することが重要と考える。看護系大学生は教員や友人などの人的活用は低い[23]と言われているが、本研究においても教員や友人・知人・先輩を情報源と回答している学生は3割に満たなかった。しかし、有意差は認められなかったものの、1～2年生に比べ3～4年生のほうが教員や授業を情報源と回答している割合が高かった。3～4年生は専門科目の授業が増える中で専門分野での看護師の活動を知る機会を得られることが関係していると思われた。また、学年が進むにつれ教員と接する機会が増え、教員が学生にとって相談しやすい存在となったのではないかと推測された。このことから、看護基礎教育課程における看護学生のキャリア発達支援としては、信頼性の高いインターネット環境を整えること、教員が授業や指導の場面においてキャリア発達を意識して学生と関わることが重要であると考える。

以上、今回の調査結果から本研究の対象者は、修士・博士よりも認定看護師や専門看護師に対する役割の認知、関心、志望が高く、学年間では関心において1年生で有意に高く、3年生で低いということ、資格取得には「情報」が必要で、「インターネット」を必要な情報源と考えていることが明らかとなった。これらの結果から、看護学生へのキャリア発達支援には、資格取得に関する正確な情報を得られる環境を整備すること、教員自身が学生の将来のキャリア発達を意識した関わりを持つこと、認定看護師、専門看護師のみならず、修士・博士として研究的かつ論理的に看護における課題を探求する必要性を伝えることが重要であるという示唆を得た。

本研究の対象は一大学の看護系大学生であり対象数も少ないため、得られた結果は一般的な看護学生のキャリア発達の認識とは言えない。また横断的調査であり、同一集団の学生について学年の進行に沿って調査した結果ではないため、本研究の結果は当該学年の集団が持つ特性であるとも言え、一概に学習進度による差異とは言い切れない。今後は対象者数を増やし、学習進度による差異を検討するには縦断的に調査することが必要と考える。

謝辞

本研究にご協力いただきましたA大学看護学科の皆様に心より感謝申し上げます。

＜文　　献＞

1）文部科学省：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告書．2011.＜2012.03.18アクセス＞
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf
2）藤村和宏：職員の満足はなぜ重要か．Nursing Today 14(3)：12-16，1999
3）原田広枝，山本千恵子，北原悦子他：看護学生のキャリア志向とキャリア開発支援に関する研究．九州大学医学部保健学科紀要(7)：13-21，2006
4）グレッグ美鈴，池邉敏子ほか：臨床看護師のキャリア発達の構造．岐阜県立看護大学紀要3(1)：1-7，2003
5）山内栄子：看護大学の学生における卒業前のキャリアデザイン．日本看護学教育学会誌18(1)：43-53，2008
6）吾郷美奈恵，三島三代子，林健司他：看護基礎教育におけるキャリア支援と評価．島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要(4)：73-79，2010
7）原玲子：看護師として病院に就職することを決定した看護学生のキャリア志向と職場選択に関する研究．宮城大学看護学部紀要14(1)：69-79，2011
8）文部科学省：文部科学省新卒者支援チーム関連施策広報資料．2010.＜2012.10.08アクセス＞
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kinkyukoyou/suisin/Sdai4/sankou2.pdf
9）前掲６）p73-79
10）前掲７）p69-79
11）出口睦雄，野田貴代，磯部尚美：愛知きわみ看護短期大学卒業生の就職病院選択動機．愛知きわみ看護短期大学紀要(4)：107-116，2008
12）出口睦雄，野田貴代，都竹友季子：愛知きわみ看護短期大学卒業生の就職病院選択動機　第2期生の特徴．愛知きわみ看護短期大学紀要(5)：115-125，2009
13）出口睦雄，野田貴代，川合奈緒美：愛知きわみ看護短期大学卒業生の就職病院選択動機　第3期生の特徴．愛知きわみ看護短期大学紀要(6)：41-51，2010

14) 出口睦雄，野田貴代，牧田和美：愛知きわみ看護短期大学卒業生の就職病院選択動機　第4期生の特徴．愛知きわみ看護短期大学紀要(7)：55-64，2011
15) 清水佐智子：看護学生の就職活動における情報収集と意思決定要因．日本看護学会論文集　看護管理38：261-263，2008
16) 水野暢子，三上れつ：臨床看護婦のキャリア発達過程に関する研究．日本看護管理学会誌4(1)：13-22，2000
17) 厚生労働省：看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査　統計表一覧．2011.＜2012.10.08アクセス＞
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001083194
18) 伊藤眞由美，鈴木初子，小笠原昭彦：看護短期大学生の職業調査について．名古屋市立看護短期大学紀要11：93-101，1999
19) 藤澤怜子，國吉のぞみ，佐野綾他：看護大学生の進路選択に対する成熟度と自己効力に関する研究．日本看護学会論文集（看護管理）38：237-239，2008
20) 森美香，西山ゆかり，木戸久美子：四年制大学の看護学生における職業準備性．滋賀医科大学看護学ジャーナル3(1)：55-63，2005
21) 金井壽宏：働くひとのためのキャリアデザイン．PHP新書，東京，2005，170-172
22) 曽田陽子，小松万喜子，川田智惠子：愛知県立看護大学の教育改革に関する調査(7)　本学学部生の本学大学院への進学ニーズ．愛知県立看護大学紀要(11)：125-132，2005
23) 山田佐登美：看護学生のニーズに答える国立大学病院のリクルート策．看護展望32(4)：23，2007